

【プロジェクト名】 学び続ける学校トップリーダーの資質向上事業

1 プロジェクトの目的・概要

教職大学院専門部会は、佐賀県教育委員会と佐賀大学大学院学校教育学研究科（以下、「佐賀大学教職大学院」）の連携・協働により、「学び続ける教師」の育成を目指すとともに、佐賀県における教職員の生涯学習システムを構築していくことを目的とする。

そこで本事業では、佐賀県における「チーム学校」の実現に向けた推進役となる新たな学校管理職を「学校トップリーダー」と位置づけ、子どもを支えるネットワークの中の「学校」を意識し、多様で複雑な教育課題に対して組織的・効果的な対応を行うことができる「チーム経営」のマネジメント力を高めるため、佐賀大学教職大学院と佐賀県教育委員会が組織的に連携・協働して、学び続ける学校トップリーダーの資質能力の向上に取り組む。

令和2年度は、佐賀県教員育成指標で掲げられた10種類の資質のうち、「判断・決断力」、「指導育成力」、「学校組織の理解と運営」、「危機管理・広報」、「職務遂行能力」という5つを取り上げ、研修を行う計画を立てていた。

しかし、新型コロナウイルスの影響で1学期中の実施が難しかったため、研修回数を5回から3回に変更して実施した。また2学期以降も対面での研修は控える必要があったため、オンライン配信型という形態をとった。

2 令和2年度の実施状況**(1) 研修会の概要**

研修プログラムは、セッションIからIIIの全3回（1セッション3時間）の構成であった。具体的には、佐賀県教員育成指標で掲げられた10種類の資質のうち、「学校組織の理解と運営」、「危機管理・広報」、「職務遂行能力」という3つを取り上げた。研修はオンライン配信型で行った。講義動画を各自で視聴し、講義の感想・質問を提出してもらい、後日講師からの回答をメールで配信した。

(2) 対象、人数、期間、会場、日程、講師**対象・人数：**

研修対象者は、佐賀県の小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の校長・副校長・教頭とし、定員は各セッション30名程度であった。また受講は3つのセッションの中から自由に選択できる形をとった。

期間：

令和2年10月6日～12月22日

日程・受講者数・講師：

セッションI：10月6日～23日 ※講義動画の視聴可能期間

受講者数42名

松尾敏実（佐賀大学大学院学校教育学研究科・教授）

セッションII：11月10日～27日 ※講義動画の視聴可能期間

受講者数 45名

新富崇央（岩永新富法律事務所・弁護士）

セッションIII：12月4日～22日 ※講義動画の視聴可能期間

受講者数 35名

戸上信一（戸上電機製作所・代表取締役社長）

（成果）

今年度は新型コロナウイルスの影響から、研修をオンライン配信型とした。どのくらい受講していただけるか不安であったが、蓋を開けてみると昨年度よりも受講者数が多かった（1セッションあたり平均受講者数：昨年度 26.6名、今年度 40.6名）。受講生の感想を見ると、「対面での研修を望んでいたが、オンライン配信型を受けてみると、自分のタイミングで受講でき、分からなかったところを何度も見返すことができ良かった」など肯定的な意見が多かった。

各セッションの終了後に受講者にアンケート調査を行った（表1参照）。アンケートは、研修内容に対する理解度や満足度、今後の実践への活用可能性などの8項目について尋ねた。いずれの項目も平均値が4段階中の3点以上を示しており、本研修プログラムを肯定的に評価していたことが示唆された。

表1 各セッションに対する受講者の評価（標準偏差）

		セッションI 学校組織の理解と運営	セッションII 危機管理・広報	セッションIII 職務遂行能力
受講者数		42名	45名	35名
1	本日の研修内容を理解することができた。	3.81 (0.43)	3.70 (0.46)	3.52 (0.57)
2	これまで知らなかった考え方や実践方法を学ぶことができた。	3.25 (0.61)	3.55 (0.56)	3.48 (0.57)
3	本日の内容は学校が直面する諸状況や課題を取り上げたものであった。	3.75 (0.55)	3.67 (0.59)	3.19 (0.72)
4	本日の内容は管理職の実践に役立つ内容であった。	3.84 (0.39)	3.79 (0.48)	3.59 (0.56)
5	本日の研修を通して、学校経営に主体的に参加する意欲が湧いた。	3.53 (0.55)	3.24 (0.74)	3.48 (0.63)
6	本日の研修は自身の力量の向上に有効であった。	3.56 (0.54)	3.61 (0.65)	3.44 (0.63)
7	本日の研修に満足している。	3.63 (0.62)	3.73 (0.51)	3.52 (0.63)
8	本日のような研修があればまた参加したいと思う。	3.66 (0.47)	3.79 (0.41)	3.59 (0.68)

注) 各質問に対して、1：当てはまらない、2：やや当てはまる、3：わりと当てはまる、4：とてもよく当てはまる、という4段階で回答を求めた。

今年度も、佐賀大学教職大学院教授、戸上電機製作所代表取締役社長など、佐賀県内の教育資源を活用し研修を行ったことが、研修に対する肯定的な評価につながったのではないかと

と考えられる。また、スクールロイヤーなど様々な教育課題を取り上げたことで、受講者の方に多くの視点を提供できたといえる。

本事業を進めるに当たり「開発ワーキングチーム」会議を定期的を開催し、現場にとって必要性のある研修となるよう、また実施がスムーズに行くように綿密な打ち合わせができた。

(課題)

令和3年度以降も、佐賀大学教職大学院と佐賀県教育委員会において本事業を継続していくことで合意を得ている。ただし、新型コロナウイルスの収束状況が未だ不透明であるため、研修回数や研修形態については、その時の状況をしっかりと判断し、柔軟に対応していきたい。

3 今後の予定等

令和2年度については、すべての事業を終了した。次年度に向けて「開発ワーキングチーム」会議を継続的に開催していく予定。